



太陽と大のなかよし戸沢の子

村山市立戸沢小学校 学校だより第13号 令和8年 2月25日 発行 校長 高橋 文明

地域に愛され、地域の力を生かす戸沢小学校に!!

令和7年度がスタートしてから、まもなく1年が経過します。この1年、本校においても時代を象徴する出来事がたくさんあったことを振り返ると、野生動物の出没等や猛暑、大雨・雷における教育活動への影響は、複数回に及びました。実際には、学校だけの対応では困難な場合があり、保護者や地域の方にたくさんご協力いただきました。

前号でもお伝えした通り、本校では、次年度から「学校運営協議会制度」を導入します。地域の方々から、学校運営のためにお力添えをいただいています。そうすることで、戸沢地域が持っている人材力、教材力、コミュニティ力が、学校の教育活動に生かされていくことになります。地域が必要とする人材を、地域と学校が目的や手立てを共有し、学校教育を通して育成することができます。戸沢を、村山市を、山形県を支えていく人材を育てていくことは、第7次山形県教育振興計画の大きなねらいでもあります。

戸沢小学校として残された時間はあと2年です。地域の力をフル活用することで、子ども達は地域のよさや魅力、可能性を知っていきます。それが、地域に対する誇りを自覚することにつながっていきます。さらに地域に愛され、地域の力を生かせる戸沢小学校にしていきたいと考えています。令和10年度には、村山市西部地区の学校統合をひかえています。統合しても、戸沢地域の子どもであることには、変わりありません。この2年間の取り組みを基盤に、地域を誇れる人材の育成に向かっていこうと考えています。



地域の皆様とふれ合い、学びを広げた教育活動

「ばくだん菓子」づくりを体験しました！

2月17日(火)、1・2年生が「ばくだん菓子」づくりを体験しました。今回も、樽石の松田清純さんからご協力いただき、楽しい体験をすることができました。

「ばくだん菓子」は、「ポン菓子」や「ドン菓子」など様々な呼び名がありますが、もともと戦後の1945年頃、少ない米で子どもたちを満腹にさせるために専用の機械を開発したといういわれがあるそうです。作られる過程での大きな音が名前の由来のようです。

子ども達は、だんご木からこぼれただんごのかけらを材料に菓子づくり体験を楽しみました。一人一人製造機を回したり、「5、4、3、2、1、ドン!!」の掛け声で大きな音が出る瞬間を間近で見たりすることができました。

完成した「ばくだん菓子」は、全校生に振る舞われ、素朴ながらもほんのり甘い伝統菓子を、味わうことができました。



受賞おめでとうございます！

6年生の半澤凧紗さんが、令和8年2月21日(土)に村山市スポーツ協会より、個人奨励賞表彰を受けました。凧紗さんは、令和7年7月21日(月・祝)に開催された、第41回山形県小学生陸上競技交流大会において、女子80mハードル競技で第1位に輝きました。

授賞式では、受賞者代表あいさつも務め、堂々と受賞の喜びを話していました。ミラノ・コルティナオリンピックにも負けない素晴らしい受賞でした。受賞、おめでとうございます。これからの活躍にも大いに期待したいです！

